



約1600年前の姿を復元

昼飯大塚古墳現地説明会に350人

墳丘の長さ150m、県内最大の前方後円墳・昼飯大塚古墳——古墳時代中期初頭(4世紀末)に築造と推定されており、国の史跡に指定されています。

市は、約1600年前に築かれた同古墳を修復し、歴史公園として再生させる保存整備事業を平成21年度から4か年計画で進めています。3年目となる今年度は、後円部の南東部分を築造当時の姿に復元するための発掘調査が行われ、土などに埋もれていた3段築成の墳丘や、深さ約3mの周壕があらわになりました。

こうした様子や発掘調査の成果を伝えるため、2月5日に現地で開かれた説明会には、残雪のなか、市内外から考古学ファンなど約350人が参加。調査や整備の助言を行っている八賀晋三重大学名誉教授などから斜面に並べられた葺石の特徴、1段目の平坦部で発見された23個の埴輪などについて、説明を受けました＝写真＝。

その後、参加者の皆さんは、墳丘や周壕が復元されたゾーンを熱心に見入ったり、高さ約13mの後円部の頂上から古墳全体を眺めたりしながら、古代のロマンに浸っていました。

保存整備事業の最終年度となる来年度には、広場や修景の整備を計画しており、同古墳は、来年の春に歴史公園として生まれ変わる予定です。



昼飯大塚古墳歴史公園の完成イメージ図

調査にご協力を

第五次総合計画
後期基本計画策定
のためのアンケート
をお願いします!



市は、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるため、第五次総合計画後期基本計画(計画期間:平成25年度～平成29年度)の策定の準備を進めています。

市民の皆さんの思いやご提言などを幅広く取り入れた計画づくりを行うため、次のとおりアンケート調査を行いますので、ご協力をお願いします。

- ※対象／市民3,000人(無作為に抽出) ※調査票を2月中旬に郵送
- ※調査内容／市の取り組みに対する満足度および重要度や、これから重点的に取り組むべき施策など
- ※回答方法／3月9日までに、回答いただいた調査票を同封の返信用封筒で返送 ※切手は不要
- ※備考／無記名で回答いただき結果は統計的に処理します
- ※問合せ／行政改革推進室(内線278)へ

大垣市はもろ西濃地域全体の活性化に大きな期待をしています。



(仮称)大垣西ICから南を望む(1月撮影、岐阜国道事務所提供)

ご参加いただきたいと思っています。同自動車道は、大垣西IC(仮称)大野神戸ICの一部区間も先月に着手となるなど、9年後の平成32年度末の全線開通を目指して、整備が急ピッチで進められています。その効果は、交通渋滞の緩和だけでなく、物流が円滑になるため、企業が活性化します。誘致が進み、産業が活性化します。さらに、観光交流産業の振興にも大いに役立つと思われま

愛知県豊田市を起点に、東海三県を環状に結び、三重県四日市市に至る延長約160kmの「東海環状自動車道」。現在、東回りルート(豊田東ジャンクション(以下「JCT」)と関見インターチェンジ(以下「IC」)の約76kmの区間が開通しています。一方、県内の西回りルートでは、(仮称)大垣西IC(仮称)養老JCTの約6kmの区間が最も先行し、平成19年12月に市内綾野地区で工事着手となりました。私も、昨年11月、荒尾町・松町に位置する大垣西ICや、東海道新幹線をまたぐ高架橋などを視察しましたが、工事は順調に進んでいます。同区間は、「ぎふ清流国体」が開幕する9月に、西回りルートでは最初となる開通を迎える予定です。

8月下旬には、市民の皆さんと開通をお祝いするため、眺望を楽しみながら同自動車道の歩き初めを行う「ハイウェイウォーキング」をはじめ、新鮮な農産物や花を販売する「朝市広場」、ステージイベントなどを行う開通記念事業を予定していますので、ご参加いただきたいと思っています。

東海環状自動車道
大垣西へ養老間の整備進む

大垣市長 小川 敏



市長の
おおがき